

AMDA

多様性の共存

ジャーナル

2010年8月25日 VOL.33 増刊 第252号 定価550円
発行/AMDA 〒700-0013 岡山市北区伊福町3-31-1
TEL 086-252-7700 FAX 086-252-7717
E-mail:member@amda.or.jp2010年
8月号

8

緊急救援 救える命があればどこへでも

2009年度年次報告書 本号9P～

特定非営利活動法人アムダ (AMDA)
http://amda.or.jp/
特定非営利活動法人 AMDA 社会開発機構
http://www.amda-minds.org/
特定非営利活動法人 AMDA 国際医療情報センター
http://amda-imic.com/

騒乱の発端となった南部オシの街



診療する AMDA カザフスタン支部医師

キルギス共和国国内避難民に対する緊急医療支援活動

中央アジアのキルギスでは、キルギス系民族とウズベク系を中心とする少数民族との間で6月半ばに騒乱が発生し、21日にはその犠牲者が208人に上るという同国保健省の発表が出されるに至りました。報道では避難生活を送る住民は30万人とも40万人とも言われました。AMDAでは調査を兼ねた緊急医療支援チームを派遣することを決定し、本部から調整員1名とAMDAカザフスタン支部から医師1名を派遣しました。

派遣期間 6月30日～7月8日

(キルギス国内滞在 1日～7日)

今回の緊急救援ではキルギス政府をはじめ、同国保健省、特にダミラ・ニアザリエヴァ保健相より、いずれの場所でも医療行為ができる許可や安全確保のための市内同行者の手配などの手厚い支援をいただき、紛争地での活動が可能になりました。

以下にご報告します。

● ● ●

首都ビシュケクでは以下の医療機関を訪問した。

1. ビシュケク国立病院
(神経外科、眼科、外科)
2. 国立母子福祉センター
3. ビシュケク外傷・整形外科研究センター

以上三つの病院では内乱で負傷した25名の患者と面会。患者のほとんどに銃撃による被弾、骨折、頭蓋骨及び脊椎の損傷等が見られた。病院側及び患者当人と相談した結果、患者本人が支払うこととなるものの医薬品を寄贈することにした。

内乱の発端となった南部オシでは、現地 NGO インタービリムと協力し、以下、四つの地域において国内避難民に対する支援を行った。

1. オシ地区オン・アディール：現地の学校に設置されたキャンプでは、ウズベク系キルギスタン人が避難していた。AMDAはここで約30名の患者を診察
2. カラ・スー地区アク・タッシュ村：内陸部アク・タッシュ村に設置された難民キャンプでは、キルギス系の人々が小さなコミュニティを形成しており、AMDAはここで25名前後(主に女性と子供)の治療にあたった
3. オシ南部ユジュニ村：同村の南にあるキルギス系のコミュニティ
4. オシ地区『カマロヴァ』(障害者およびその家族を中心とした難民キャンプ)：障害者施設の入居者とその家族によって形成されたキャンプ。施設の方は内乱で破壊されてしまった。ガルバルシン医師が約20

名(大半が女性)の診療にあたった。

四ヶ所のいずれのキャンプにおいても避難民の大半は女性と子供であった。これは男達が日中に自宅まで戻り家財を守っていた為である。主な怪我や病状については、高血症、頭痛、腹部における合併症、胃感染、被弾による外傷のほか、婦人病の症状も多く見られた。AMDAはここでも被災者家族に医薬品と衛生物資を寄贈した。

騒乱から2週間以上たった訪問時点でも、女性や子供達の多くが今回の惨事におののいていた。家族を失った者も少なくない。ガルバルシン医師によれば、避難者の表情に精神的なトラウマが明らかであり、精神科での適切な処置が必要な状況である。このほか、拉致被害に遭った避難者やガソリンに放たれた火で火傷を負ったけが人も見られた。いずれの避難民キャンプも基本的な生活物資が欠乏しており、医療ケアにおいては皆無であったといえる。

緊急救援担当

ニッティヤン ヴィーラヴァーグ

AMDAは今後もキルギス政府や現地 NGO、青年企業家連盟等と協定を結ぶなど、連携協力先を広げることで、紛争地のこれらの人々を支援する活動を続けてまいります。

ご支援よろしくお願いたします。

ハイチ地震被災者への義肢支援プロジェクト

AMDA は今年 1 月 12 日にハイチで発生した大地震直後から多国籍医師団を派遣し緊急医療支援活動を行ってきました。緊急医療に続き、5 月から義肢支援事業を開始しています。その進捗状況についてご報告します。このハイチ地震被災者支援事業は、皆様からの募金で実施されています。これからも引き続きご支援くださいますようお願いいたします。



被災者と AMDA ポリビア医師・八尾技師装具師（後列右）森田調整員ら

義肢支援事業について

【実施期間】 2010 年 5 月より 2 年間の予定。

【実施地域】 ハイチ共和国 首都ポルトープランス
ゲスキオ病院の敷地内に建設中のリハビリテーション
センターの一角に、AMDA 義肢製作工房を設置。敷地
整備を終え、来週から工事が始まる予定。

【対象患者数】 地震被災したハイチ人切断者 50 名、

【スタッフ】

義肢装具士… 1 名 八尾直毅 (AMDA 義肢支援プロ
ジェクトマネージャー)

現地スタッフ… 3 名 (調整員、アシスタント兼ボディ
ガード、ドライバー兼通訳)

【現地協力機関】 ポルトープランスにあるゲスキオ
(Gheskio) 病院 整形外科部長 Dr. Hans Larsen

【部品について】

1. 活動に必要不可欠となる部品を中古部品で補いコ
スト削減し、できるだけ多くの被災者へ義肢提供を目
指す。今回は熊本総合医療リハビリテーション学院
並びに同学院義肢装具学科学科長の小峯敏文先生の
協力を得て、日本国内の義肢装具製作事業所へリサイ
クル部品の提供を呼びかけた。集まった部品 500 点、
230kg を、2010 年 7 月 15 日ドミニカ共和国へ発送。
ハイチの税関が厳しいため、隣国ドミニカ共和国をロ
ジスティックの拠点とし、森田佳奈子調整員が受け入
れとハイチへの搬送を担当する。

2. 義肢製作に必要となる大型機械 (プラスチック
を溶解する機械や研磨に使う機械など) はプエルトリ
コの OMEGA 社を通じ購入する。

現在の主な活動：

- 1) 今まで型取りした患者数→ 10 人 (7 月 16 日まで)
- 2) 主な活動→切断者の情報収集に現地スタッフと共
に被災キャンプ地を訪問し、実際に患者さんと会って
義肢支援の説明をしている。7 月に入り、ポルトー
プランスの倒壊した学校の敷地を使ってキャンプの住民
たちへ数回説明会を開いており、切断者本人やその家
族等総勢 50 人ほどが集まることもある。

現在、ハイチに駐在している日本からの AMDA 派遣者：

- *八尾 直毅 (やおなおき) 義肢装具士 元青年海外
協力隊 ドミニカ共和国派遣 08 年 3 月～ 10 年 3 月
4 月 1 日より AMDA 義肢支援プロジェクトマネー
ジャーとして日本国内勤務 相生市出身
4 月 28 日関西空より出発ニューヨーク経由 5 月
1 日ドミニカ着

現在、ドミニカ共和国に駐在している日本からの
AMDA 派遣者：

- *森田 佳奈子 (もりたかなこ) 調整員 元青年海外
協力隊村落開発普及員 ドミニカ共和国派遣 08 年 1
月～ 10 年 1 月
4 月 1 日より AMDA ハイチ復興支援プロジェクト
担当調整員として日本国内勤務 大阪市出身
5 月 1 日関西空港より出発ニューヨーク経由 5 月 2
日ドミニカ着

AMDA での活動経歴 チリ地震緊急医療支援活動 派
遣調整員 2010 年 3 月 2 日～ 3 月 31 日

これまでの AMDA 多国籍医師団参加のべ人数 (7 カ
国より)：医師 17 人・看護師 8 人・調整員 9 人・義
肢装具士 1 人 計 35 人

■ AMDA の活動にご支援のお願い

ご寄付の際には郵便払込取扱票をご利用ください。

※郵便振替

口座番号 01250-2-40709

口座名 特定非営利活動法人アムダ

※ e-バンクからのご寄付も受け付けております。

詳しくはホームページをご覧ください。

<http://amda.or.jp>

チリ地震発生半年後（9月）の復興保健支援活動実施にむけて

— 緊急救援派遣者大和看護師の6月度チリ被災地調査報告より —

チリ事業担当 石岡 未和

震災後、3カ月半が経過したコンスティツシオンには、以前より多くの仮設住宅が建設されていた。

しかし、それらは全て木のプレハブ。現在も水道は無く、給水車で水が運ばれている。トイレは、仮設ポータブルトイレを共同使用し、3日に1度清掃員が回ってくる。シャワーは電気でお湯が出る仕組みだがトイレと一緒にしている。住宅内に炊事場はなく、自力で改造し室内に設置した人もいれば、ガス台がなく外で炭を使って調理している人もいた。震災直後に比べれば、生活環境は改善してきているが、決して良いといえるものではなかった。

仮設住宅生活によるストレス、今もなお続く余震の恐怖で、人々は震災直後よりも深く重く疲れていた。チリは、現在雨期である。秋から冬への気候変化もあり、仮設住宅での生活は厳しいはずだ。しかし、チリ人はこの雨が好きだそう。農作物が育ち、豊かで実りある大地をもたらしてくれる恵みの雨だからだ、と。最後に、大和看護師が勇気づけられたという、1人の

婦人の言葉を紹介したい。「必要なものは？なんていわれたら、毎日パンもお米も油も、砂糖も全部必要よ。でも本当に必要なのは、乗り越えようという前向きな気持ちだと思うの、エスペランサ（希望）よ」

この希望を届けられるように、これからもチリの人々と関わっていきたい。

※チリ地震被災地支援保健活動の継続で、6月10日から17日にかけて、AMDAのチリ地震緊急医療支援活動に参加した大和玲子看護師を、緊急医療・乳幼児支援プロジェクトを行った第7州マウレ、タルカとコンスティツシオンに再派遣した。

地震発生半年後に、9月18日のチリ国独立記念日に合わせて、復興支援保健活動を行う予定である。チリでは、独立記念日を家族や友人と盛大に祝う習慣がある。今年は独立200周年にあたり、震災で傷を負った人々もこの日を心待ちにしているのである。

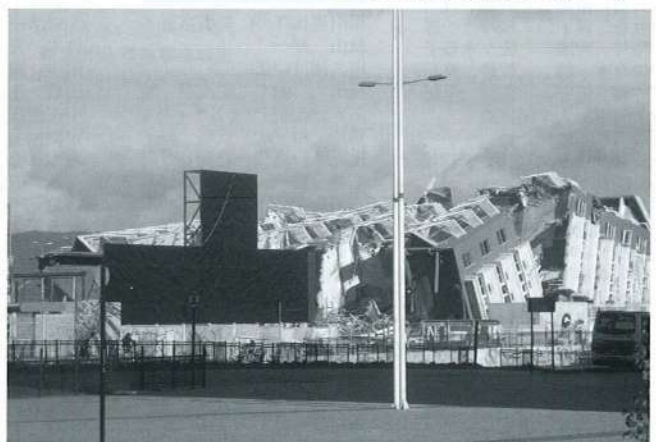


↑ 冬を迎えるチリ地震被災地仮設住宅
↓ 津波避難サイン



↑ 沿岸部津波被災地
↓ 倒れたままの高層ビル

いずれも 2010年6月の様子



2010年4月～6月の動き

<講演>		
4月21日	大阪そねざきロータリークラブ 会合	AMDA 多国籍医師団の緊急医療活動と今後の支援について
4月27日	岡山商工会女性会 総会記念講演会	AMDA の歴史と活動について - 岡山市への提言
5月22日	玉野市児童館こどもの集い「国際協力って?」	バングラデシュのおはなし
5月17日	AMDA バングラデシュ報告会	AMDA バングラデシュ支部の活動について
5月30日	国際協力シンポジウム-世界の中の日本の役割-	ハイチ大地震における国際協力活動の意義
6月5日	ぼちぼちの会勉強会	チリ地震緊急救援活動報告
6月8日	一隅を照らす運動	チリ地震緊急救援活動報告
6月10日	新日本宗教団体連合会 理事学習会	AMDA の国際緊急救援活動-四川・スマトラ・ハイチ・チリ-
6月12日	岡山県立図書館とことん活用講座	AMDA に見る国際協力
6月13日	ルワンダの学校を支援する会講演会	AMDA ジェノサイド直後のルワンダを語る
6月30日	岡山県高等学校校長会普通部会研修会	国際貢献活動を担う人材育成
<大学講義>		
6月14日	神戸大学法学研究科	武力紛争の影響を受けた地域におけるNGOの役割
6月28日	岡山大学法学部公共政策論	AMDA の活動の具体的内容とその意義・課題
<イベント>		
4月18日	第3回あすか健康村フェスティバル	

AMDA 募金箱を設置して下さっているご協力者のうち、2009年度中、またそれ以降に募金をお寄せくださった方々のお名前を当ホームページでご紹介しています。

<http://amda.or.jp>

この秋のAMDA企画ご案内 皆様のご参加をお待ちしております。

9月25日(土) 1:30-5:00

岡山県立大学大学院「災害医療援助特論」公開講座

10月30日(土) 1:00-3:00

ハイチ復興支援事業報告会

*いずれも場所は岡山県国際交流センターです。

詳細はホームページご参照ください。 <http://amda.or.jp>

*お問い合わせ AMDA ボランティアセンター

電話 086-252-7700 e-Mail:member@amda.or.jp

書き損じハガキを集めています

書き損じハガキがありましたら、AMDAまでお寄せください。切手と交換し、通信費として使わせて頂いています。また、未使用切手、ハガキも集めています。

※お問い合わせは Tel:086-252-7700 Fax:086-252-7717

AMDA 神奈川支部総会報告

AMDA 神奈川支部副代表 松本哲雄

6月27日 小林国際クリニック(神奈川県大和市)で開催された神奈川支部の総会報告をいたします。

◆2009年度事業報告

①ネパールのダマック AMDA 病院付属医療学校奨学金(低カーストの女子学生にヒロ・モリ奨学金)を毎年贈呈してきたが該当者の推薦がなく支出を見送り、神奈川ライブラリーに図書購入金を送った。

②神奈川県海外研修員 タイ人看護師オムが09年8月～10年3月県内の病院で研修。

③横浜国際フェスタ2009に参加。9月5日・6日 パシフィコ横浜展示ホールにて

◆2010年度役員

代表:小林幸米 副代表:松本哲雄・篠原真理子・柘植靖子

会計:岩淵満江 会計監査:武井紀子

◆2010年度事業計画

①今年度以降のヒロ・モリ奨学金はタイ国プミボン空軍大学医学部女子学生2名に贈呈。

②タイ人看護師(神奈川県海外研修員)の招聘。
小林代表が2010年3月20日～22日に訪タイ。バンコク総合病院から看護師1名を神奈川県海外技術研修員に推薦予定。

2010 年度 AMDA モンゴル国第一次眼科医療奉仕団活動



国立モンゴル第三病院での手術

6月23日から7月1日の日程で、アムダはモンゴルの首都ウランバートルに『AMDA モンゴル国第一次眼科医療奉仕団』を派遣しました。現地検眼師の技術向上に貢献すべく座学、実技講習を含む6日間のセミナーをモンゴル眼科協会とともに開催しました。講師には、これまで国内外で検眼師育成に豊富な経験をお持ちのめがね技術コンサルタントの内田豪先生をお迎えし、モンゴル母子健康センター等、現地医療機関や検眼設備の整った眼鏡店で検眼や眼鏡の調整に関する指導を行いました。

モンゴル国内で活躍する眼科医、看護師等総勢120名がこのセミナーを受講しました。地方からの参加者の中にはカザフスタンとの国境であるバヤンウルギー県、中国との国境である



ウランバートル市内眼鏡店での子どもの検眼

南ゴビ県からの参加者もあり、必死に受講する姿勢に「時間を無駄にしない熱心な姿勢は見事であった」と内田先生も感動されていました。

モンゴル統計局2009年度によるとモンゴル国全人口の30%強が14歳未満となっていて、その子どもの視力に関する検眼を含むフォローがかなり難しい環境であることを多くの眼科医が認識しており、何とか自分たちの努力と研鑽で解決しようとしています。来年もこのセミナーを是非続けてほしいという強い要望が参加者の多くからありました。

この他、アムダは70年以上経った今も決してモンゴルの人々の記憶から消えることのないハルハ戦争（所謂ノモハン事件）の従軍者及びその家族を対象として、国立モンゴル第三病



講義する内田めがね技術コンサルタント

院で白内障の手術を行いました。これは2006年にウランバートルで開催された『アムダ医療と魂のプログラム』（ASMP）に引き続くもので、過去の悲劇から学び、今後の平和の実現に活かすことを目的としています。

今回は、24名の高齢者に無償で白内障手術をしました。大韓航空と日本アルコンのご協力とご支援により、白内障手術に必要な眼内レンズやそのほか医療消耗品をモンゴル眼科協会に寄付することができました。両社のご協力に深謝いたします。

尚、8月21日からは、今回の白内障手術を受けた患者さんの術後検診と検眼師セミナー受講者による小学生の視力検査ならびに2010年度のASMP慰霊祭が開催される予定です。

AMDA 医療と魂のプログラム：ASMP（アスンプ）
フィリピン・コレヒドールにて開催

2010年6月12日、アムダ・フィリピン支部主催の下、『AMDA 医療と魂のプログラム（アスンプ）』がフィリピン・マニラ郊外のコレヒドール島にて行われました。今回のアスンプはフィリピンで九度目の開催となります。

マニラ湾に浮かぶコレヒドール要塞は第二次大戦中にフィリピン、アメリカ、日本の各軍が熾烈な戦いを繰り広げ、国を問わず沢山の命が犠牲となった場所として知られているところです。マニラから船で一時間半、参加者一行約40名は前日よりコレヒドール入りし、翌日の慰霊祭本番に備えました。

日本からは、名古屋の浄土宗西蓮寺の大田明光ご住職、菅波茂代表、代表部ニティアン・ヴィーラヴァグが参加。島内サンノゼ教会にて行われた慰霊祭には、仏教はもちろんのこと、カトリックをはじめとするキリスト教各派、イスラム教の僧侶達が犠牲者達を偲んで平和の祈りを捧げました。

今回のアスンプでは、島内に点在する戦跡での献花や平和祈願の植樹も行いました。同日夜に行われた合同慰霊



祭では、菅波代表が壇上で挨拶し、過去の経験から学ぶことの大切さ、相互扶助の精神、また世界平和と多様性の共存について語りました。

ASMP（アスンプ）とは： AMDA Soul and Medicine Programme

第二次世界大戦戦没者そして近年の自然災害の犠牲者の人権については、宗教者による合同慰霊祭を、同戦争に巻き込まれた人々や災害被災者には、AMDAによる医療を通しての、平和の追求を行おうとする、宗派を超えた宗教者の方々とAMDAの合同事業。2000年の開始以来毎年開催している。

AMDA バングラデシュ ディレクター Mr. ラザックとの交流会

AMDA 玉野クラブ 理事 岡崎 幸生

AMDA 玉野クラブは平成 21 年 4 月 1 日、4 名で発足しました。現在は会員 13 名に増え、竹谷和子代表を中心として活動しています。活動内容は地区の運動会や文化祭などで、コミュニティのイベントへ参加し AMDA 及び AMDA 玉野クラブの PR をしつつ活動への理解と協力・支援を呼びかけ、バザーや募金活動を行っています。我々はバングラデシュへ教育面、衛生医療面を中心に支援活動を展開しています。

今年 5 月バングラデシュ支部のプロジェクト責任者ラザックさんをお招きし AMDA 玉野クラブとの交流会を持ちました。交流会前日にクラブの代表らと共に黒田晋玉野市長を表敬訪問し、AMDA への理解を深めていただきました。

市長から激励の言葉をいただき今後の取り組みに大きな弾みがつきました。交流会は東児市民センターで行い、ラザックさんへの歓迎のあいさつ、彼からあいさつも兼ね AMDA バングラデシュの活動について詳しい説明後、ほぼ全員そろった玉野クラブメンバー一人一人自己紹介をしました。

ラザックさんからのお土産のバングラデシュクッキーをいただきなが

ら徐々に緊張した雰囲気はほぐれ、とても和やかに会が進行していききました。ラザックさんの AMDA の活動に対する情熱が本部ボランティアセンター事務局長成澤さんの通訳でもとてもよくわかり、感動をおぼえました。そして国際医療ボランティアとしての AMDA の活動が少しばかり理解できたと思います。

その後全員で会食をし、その場でバングラデシュのこと、現地の学校のことなどお話しいただきました。また彼の家族のことを映像で示し楽しんで語ってくれ、家族思いで優しい父親の一面をのぞかせていたことがとても印象的でした。そしていろいろな人に対しての細やかな心遣いもみられ感心させられました。とても楽しい和気あいの交流会が終わり また再会の約束をしました。短い一時ではありましたがラザックさんとの交流会は今後我々の活動にとって、大きな勇気と希望を与えてくれました。

次は私たちがバングラデシュを訪



AMDA 玉野クラブメンバー
(筆者後列左から 4 人目)



黒田玉野市長(右から 2 人目)表敬訪問

問し、ラザックさんを囲みバングラデシュ支部の方達との交流ができればと、願っています。

ご案内

岡山県立大学大学院「災害医療援助特論」第 6 回公開講座

第一部 ハイチ地震緊急医療活動と復興支援としての義肢支援とスポーツ親善交流(仮題) 講師:菅波 茂

第二部 チリ地震震被災地での活動—派遣看護師の視点から 講師:大和玲子 (AMDA 派遣看護師)

※どなたでもご参加いただけます。 入場無料

【日時】9 月 25 日(土) 1 時 30 分～5 時

【場所】岡山県国際交流センター 2 階 国際会議場

● AMDA クラブ

AMDA 鎌倉クラブ(神奈川県)
AMDA 高知クラブ(高知県)
AMDA 福山クラブ(広島県)
AMDA 竹原クラブ(広島県)
AMDA 神女クラブ(兵庫県)
(神戸女子大)
AMDA 玉野クラブ(岡山県)
AMDA 夕張クラブ(北海道)

● AMDA 支部

(国内)
AMDA 神奈川支部
AMDA 兵庫県支部
AMDA 沖縄支部

連携協力に関する協定 調印式

AMDA 岡山県立大学



〈連携協定〉

公立大学法人岡山県立大学との連携協定調印式

7 月 6 日、岡山県立大学と AMDA: 特定非営利活動法人アムダとの間で、医療・保健・福祉、自然・環境、文化・教育の各分野において連携・協力し、地域社会及び国際社会への貢献と人材育成に寄与することを目的に、古矢岡山県副知事立会いの下、協定書が取り交わされました。

写真右から 三宮岡山県立大学理事長、古矢岡山県副知事、菅波 AMDA 代表

支援者紹介

福山誠之館高等学校

前生徒会長 真鍋雄哉

私たちの通う福山誠之館高校は、AMDA 理事長菅波茂氏の出身高校です。そのご縁もあり、AMDA の活動をとおして、災害・紛争で傷ついた世界の人々のために少しでもお役に立てることがあればと、6月に行われる記念祭(文化祭)のチャリティーバザーの収益金を募金させていただくことで、活動に協力させて頂いています。

昨年度、AMDA ボランティアセンターの小池センター長にご講演をして頂きました。その中で、活動内容の他に「相互扶助の精神」「人道援助の三原則」など多くの大切なことを教えて頂き、今まで以上に国際貢献について深く考え、自分たちが役に立てることは何かないだろうかと強く考えました。今私たちが出来ることはほんの小さなことですが、これが大きな一歩になればと願っています。AMDA のますますのご発展を心よりお祈りしています。



見えない「思い」を見える「ちから」にする大切さ

ふつうにカッコいいカジュアルショップ

Crayon value 「クレヨンバリュー」 関 泰之

目には見えないものでも存在する真実があります。それを見えるものにして、実際の行動に移した時、それは「ちから」となります。

募金活動とは、正にそのひとつだと思います。

私は服屋です。見えないお客様の「思い」を「服」という見える形でご提案しお応えします。それがお客様の満足と自信になって前向きな「ちから」となります。

服屋からみなさまの「思い」をAMDAへ。それをAMDAのみなさまの活動によって確かな「ちから」へ。その「ちから」が世界へつながっていく。「クレヨンバリュー」がそんな一助になればうれしいです。(岡山市北区大元上町2-13 <http://praza-rakuten.co.jp/crayonvalue/>)



茅ヶ崎中央ロータリークラブのみなさん

ボランティア紹介

ビレル・ブシェタさん

ビレル・ブシェタと申します。

私はパリで生まれたフランス人ですが両親の出身は北アフリカです。1999年に中央大学に留学してから日本と縁ができました。アメリカ、フランスで仕事の経験を積んでからまた日本に戻ってきて、6年目になりました！今年9月に帰国するので、その前に意義のある事をしようと考え、AMDAの事務局でボランティアをすることにしました。フランス語のホームページ作成に取り組んでいます。ハイチ復興支援のスポーツプロジェクトの翻訳もします。「相互扶助」のスピリットに参加できる事は嬉しいです。

AMDA 鎌倉クラブ チャリティーコンサート XII

ハイチ地震被災者への義援支援

平成22年11月3日(文化の日)
14時00分開演(13時30分開場)
鎌倉芸術館小ホール
入場料 前売り: 2500円 当日: 2900円

Sandrine Vasseur

Beatrice Guillermin

＜ハープ & クラリネットデュオ＞
C. Debussy: ベルガマスク組曲
G.Flanc: 子守唄
M.Ravel: ハバネラ風の曲
G.Plani: カンツォネッタ 他

ハープ: ペアトリス・ギエルマン(仏)
クラリネット: サンドリーヌ・ヴァズール(仏)

日本の響き: 鎌倉管絃と琴曲献付会
藤原匠山(尺八) 伊藤咲子(唄)
鎌倉子ども日本舞踊サークル(指導: 西川翠穂)
司会: 横井三枝子 舞台監督: 中村 聡

主催	AMDA鎌倉クラブ
後援	鎌倉市、鎌倉市教育委員会、鎌倉市文化協会、フランス大使館、毎日新聞横浜社、毎日新聞横浜支店、読売新聞横浜支店、神奈川新聞社、テレビ神奈川、JCN鎌倉、鎌倉エフエム放送、AMDA本部
企画構成	坂津幸彦、伊藤咲子 運営 (AMDA鎌倉クラブコンサート委員会)
お問合せ	AMDA鎌倉クラブ代表 坂津 (0467-24-2369, 090-4819-8701)
チケット取扱い	鎌倉芸術館 0467-48-5500 島崎書店(鎌倉店) 0467-22-0208 松林書店 0467-22-0648 有限定額ミュージックショップ 0466-26-2794 AMDA鎌倉クラブ事務局 (090-6897-7288) 吉田 方

AMDA 年次報告書

2009年度は1984年のAMDA設立から25周年の節目の年でした。これまでに多くの方々が、災害被災地をはじめとする困難な状況下で生きる人々への温かいお気持ちをお寄せくださり、AMDAはその気持ちを最大限に活かし届ける活動を続けてきました。これまでの活動が認められ、2006年には国連経済社会理事会から「総合協議資格」を与えられました。その資格により2009年度には同国連理事会の会議に立て続けに参加する機会がありました。これまで、多国籍のメンバーで熱帯医療、緊急医療、復興支援、人材育成、紛争地での活動などを、アジア・アフリカ・中近東・東欧・北米・中南米の様々な地域で経験をしてきたことが、よりよい未来への活動につながるよう、機会をとらえてこれからも積極的に世界に向けて発信していきたいと考えています。そして2010年度は「市民参加型人道支援外交」の提唱とともに、ハイチ復興支援をはじめとする活動を継続実施しています。

これまでご支援くださいました多くの皆様に改めて感謝いたしますとともに、これからも息の長いご支援をくださいますようお願い申し上げます。

国際会議

世界保健機関 GOARN (地球規模感染症に対する 警戒と対応ネットワーク) パートナー会議

◇開催場所：スイス連邦ジュネーブ

◇開催期間：

2009年4月16日～4月17日

◇派遣者：

菅波 茂 AMDA グループ代表

◇出席者：世界保健機関 (WHO) 本部・地域事務所と世界39カ国の政府機関・研究機関・NGOの関係者157人

◇主催機関：WHO-GOARN

◇会議内容：

GOARN (Global Outbreak Alert and Response Network) の略。日本語訳は、「地球規模感染症に対する警戒と対応ネットワーク」会議には、WHO本部の伝染病警戒対応局長マイケル・J・ライアン氏をはじめとするWHO本部職員や各地域事務所代表の他、世界39カ国から感染症対策を専門とする政府・民間組織の関係者が参加した。菅波茂代表はWHOの臨時アドバイザーとして会議に招待された。日本からはAMDAの他に5大学と2研究機関、1財団法人の代表者が出席した。

会議では、WHO-GOARNによる世界的感染症対策の取り組みが発表された。参加者はGOARNのネットワーク構築や人材育成、支援業務の在り方について、専門的・実務的知見を交えて討論した。特に分科会では「ジンバブエのコレラ対応」「感染症対策における患者管理」「早期抑制業務 (RCO: Rapid containment operation)」について話し合った。

国連経済社会理事会 2009年閣僚レビュー会議

◇開催場所：スイス連邦ジュネーブ

◇開催期間：

2009年7月6日～7月9日

◇派遣者：

菅波 茂 AMDA グループ代表

近持雄一郎 本部職員

◇出席者：

国連事務総長や国連総会議長、国連経済社会理事会経済社会局長、世界保健機関事務局長、世界銀行総裁、世界貿易機関事務局長、国連貿易開発会議、事務局長をはじめとする国際機関の高官、国連加盟国の保健大臣、国連経済社会理事会協議資格NGOの代表者等。

◇主催機関：

国連経済社会理事会経済社会局

◇会議内容：

2009年閣僚レビュー (Annual Ministerial Review 2009)。この会議の主な目的は、世界の公衆衛生に関して国際的に合意されたゴールと責任を実行することに焦点を当てて、国連ミレニアム開発目標の達成度を測ることである。

AMDAは7月9日の午後のセッションで発表を行う団体のひとつに選ばれた。菅波代表は、2003年にAMDAがスリランカで実施した平和構築保健事業「医療和平プロジェクト」を紹介した。相対する民族グループ双方に保健医療活動を実施することを通し、信頼を育て国民意識の形成に寄与するものである。菅波代表は「正しく運営されれば保健プロジェクトは平和構築の有効な手段となり、戦争の被害を受けた地域社会の復興に貢献することができる」と述べた。

多くの発表が公衆衛生に関して広く一般的な観点から論じたものだったが、AMDAは人道支援の現場から得られた具体的方法論を示すことによって、他の参加者から理解と賛同を得ることができた。

2009 Economic and Social Council's Annual Ministerial Review (AMR). 2009年度国連経済社会理事会 年次閣僚審査会議



開催場所：中華人民共和国 北京

開催期間：2009年4月29～30日

派遣者：菅波茂 (国連社会経済理事会からの招待)

実施協力機関：中国 UNDESA (the United Nation's Department of Economic and Social Affairs) WHO, UNESCAP (the United Nations Economic and Social Commission for Asia and the Pacific) 中国北京国連経済社会理事会本部

会議内容：アジアにおける Health Literacy (健康を維持するのに必要な情報を取得、使いこなす能力のこと)の向上をテーマにアジア各国からの専門家を招いて、オピニオンリーダーやメディアの役割なども含めて討議。菅波代表も会議において、「Health Literacy」という言葉の定義を明確にする必要があると発言。

緊急支援活動

インドネシアダム決壊被害 に対する緊急医療支援活動



- ◇実施場所：ジャカルタ近郊バンテン州タンゲラン
- ◇実施期間：2009年3月30日～4月6日
- ◇派遣者：AMDA インドネシア支部の医師5人
- ◇現地協力機関：インドネシア ムハマディヤ大学
- ◇事業内容：AMDA インドネシア支部医療チームが3月30日に被災地に入り、関係者から情報収集を行った後、31日に避難所で診療を開始しました。被災地では医薬品の不足が伝えられていたことから、AMDA インドネシアチームは、事前に抗生物質、ビタミン剤、下痢、咳止め、抗炎症剤等を調達し、被災地で診療にあたりました。4月6日に診療を終了するまでに36人を診療しました。主な疾患は、風邪・咳、傷口感染、皮膚疾患、消化器疾患等でした。4月2日にムハマディヤ大学の医療チームに対して医薬品を寄贈しました。ムハマディヤ大学は、今回の災害の避難場所となったところです。4月3日には子ども们的心的外傷を和らげるための遊びやビデオ上映会を実施、本や文具セット（50セット）の配布を行いました。

イタリア地震被害に対する 緊急支援活動



- ◇実施場所：イタリア共和国中部
アブルッツォ州ラクイラ県
- ◇実施期間：2009年5月10日～5月15日

- ◇派遣者：AMDA 本部から津曲兼司医師、谷口敬一郎調整員
- ◇チーム構成：UNITALSI 職員と本部派遣者の合同チーム
- ◇現地協力機関：地元消防団
- ◇実施協力団体：
 - ・ ISIG (Institute of International Sociology Gorizia の略。非営利・民間の研究機関)
 - ・ UNITALSI (Unione Nazionale Italiana Trasporto Ammalati a Lourdes e Santuari Internazionali の略。障害者の移動・交通を支援するカトリック系イタリア全国組合)
- ◇事業内容：4月6日イタリア共和国アブルッツォ州ラクイラ(ローマから北東に約95キロ)でマグニチュード6.3の地震が発生。歴史的建造物の多い市街地を中心に建物が倒壊し、イタリア政府の発表によると、4月末までに死者約290人、負傷者約1,000人、住宅を失った人約48,000人が確認されました。AMDAは、地震発生直後にイタリア北部の研究機関ISIGとボランティア組織UNITALSIと連絡を取り情報収集を行い、AMDA本部から医師1人と調整員1人を被災地へ派遣しました。

被災地では、被害の大きかったラクイラ市街、被災者支援を実施している組織が前線基地として使うコーディネーションセンター、避難キャンプ、大学病院を訪問し、医療ニーズの調査を実施しました。また、ラクイラの医療支援を統括しているムチコニ医師と面会しました。ムチコニ医師からは遠く日本から支援の可能性を探るべく被災地を訪問したことに対する感謝とねぎらいの言葉を頂きました。医療支援については、全国の病院スタッフ、イタリア赤十字、消防、軍他からの十分な医療スタッフが確保され、被災者へのケアもできているということでした。このような経緯から、AMDAは医療支援ではなく、代わりに協力団体でありPiazza d'Armiの避難民キャンプを運営しているUNITALSIに義捐金を贈り、被災者の避難生活に役立ててもらおうことにしました。

◇裨益者の声：

UNITALSIから以下のような感謝状を頂きました。「AMDAの支援に感謝していません。AMDAの義捐金によって、被災したラクイラの人々、特に最も手を差し伸べられるべき病人やご高齢者に対して、支援を継続することができます」

バングラデシュ・サイクロン 被害に対する緊急支援活動

- ◇実施場所：バングラデシュ人民共和国
バリサル管区バルグナ県の南部5か村



- ◇実施期間：2009年6月1日～6月4日
- ◇派遣者及びチーム構成：AMDA バングラデシュ支部の医療助手1人と調整員2人
- ◇現地協力機関：各村役場
- ◇実施協力団体：AMDA バングラデシュ支部
- ◇事業内容：5月25日にバングラデシュの南部沿岸地域とインド東北部を直撃したサイクロン「アイラ」により、バングラデシュ国内では、死者180人、負傷者7103人、損壊家屋約60万戸という甚大な被害が発生しました(6月4日バングラデシュ政府発表)。AMDA本部は5月29日に緊急支援を実施することを決定し、6月1日にAMDAバングラデシュ支部の医療助手1人と調整員2人を被災地に派遣しました。

AMDAバングラデシュチームは、ダッカから約200キロ南に位置するバリサル管区バルグナ県南部の5か村で、緊急支援物資の配布と医療助手による医療サービスの提供を行いました。6月1日にチャリタトリ村で約200人の被災者に対して経口補水塩600袋、浄水剤1000錠、栄養強化ビスケット200袋を配布しました。2日には、ファリシャトリ村とウルグニア村、3日にはジュナイバリア村、4日にはバシュキ村で、上述の支援物資に加えて衣類の配布も行いました。また、医療助手が裂傷などを負った被災者に対して簡単な医療処置を施しました。

バルグナ県はサイクロンによる死者はいなかったものの、決壊した堤防の総距離が最も長い地域であり、洪水により住民の家財の損失は大きく、安全な水も確保が難しくなっていた。そのため、飲料水用浄化剤により安全な飲料水を確保できるようにし、また、栄養強化ビスケットにより避難生活による不足しがちな栄養価を摂取できるようにしました。下痢などの症状を起こしている人に対しては、経口保水塩を配布し、脱水症状を防ぐよう努めました。AMDAバングラデシュチームは6月1日から6月4日までの間に、住民約2300人に緊急支援物資(飲料水用浄水剤、経口保水塩、栄養強化ビスケット、衣類)を提供しました。

ネパール中西部下痢疾患 蔓延に対する医療支援活動



- ◇実施場所：ネパール連邦民主共和国
ベリ県ジャジャルコット郡
- ◇実施期間：
2009年7月31日～8月9日
- ◇派遣者：
朴 範子（岡山大学病院救急科医師）
ニティアン・ヴィーラバグ
（AMDA 本部職員）
- ◇事業チーム構成：AMDA ネパール支部
の医療助手4人の計6人
- ◇現地協力機関：
スルケット郡保健局（ベリ県）、ジャジャ
ルコット郡立病院、パダル村保健支所、
サルマ村ネパール軍医療キャンプ
- ◇実施協力団体：
国立大学法人岡山大学、岡山大学病院
- ◇事業内容：
ネパールの首都カトマンズから375km
西に位置する中西部ベリ県のジャジャ
ルコット（Jajarkot）郡とその周辺地域で、
5月頃から水性下痢疾患の大発生があり、
8月3日までに、約38,000人が治療を
受け、241人が死亡しました（WHO発表）。
ジャジャルコット郡は、最寄りの空港から
徒歩で4時間かかるアクセスの悪い貧
困地域です。感染の大発生は汚水に起因
し、衛生知識の欠如と衛生習慣の悪さが
これに更に追い打ちをかけました。地域
では男性が仕事を求めて街に出ている
ことから、女性と子どもに感染者が多く
見られました。

連携協定を結んでいる岡山大学に所属する熱帯医学専門家の医師とAMDA本部の調整員が7月31日に岡山を出発。2人はAMDAネパール支部の医療助手4人と協力して、感染者の治療と衛生環境の改善にあたりました。

下痢疾患の感染状況は、最終的には死者が250人を超えたものの、最も感染が広がっていたジャジャルコット郡とルクム郡では致死率が1%以下と許容レベルになり、同様に流行曲線も下降傾向となり、ひとまず感染が抑えられたことから、AMDAは活動を終了しました。

◇派遣者の声：

ネパールには8日間の滞在でしたが、この地域の生活がいかに困難であるかということをもっと体験し、最低限必

要な医療もなかなか受けられないという状況に加えて、必死に働いているにもかかわらず日々の生活にも非常に困っているという状況を日本の皆さんにも伝えなければならぬと強く感じました。

（朴 範子 岡山大学病院医師）

インドネシアジャワ島西部 地震に対する緊急医療支援

- ◇実施場所：
インドネシア西ジャワ州チアンジュル
- ◇実施期間：
2009年9月5日～9月9日
- ◇事業チーム構成：AMDA インドネシア
支部の医師2人と看護師1人の3人
- ◇現地協力機関：
西ジャワ州チアンジュル保健局
- ◇事業内容：
インドネシア共和国ジャワ島西部チ
アンジュルで、9月2日マグニチュード7.3
の地震が発生。同国災害対策庁によると
9月4日までに死者が64人、行方不明
者が37人にのぼりました。54,000棟を
超える家屋が全半壊し、27,000人が避
難生活を余儀なくされました。9月4日
AMDAはこの地震被災者に対して緊急医
療支援活動の開始を決定しました。ユド
ヨノ・インドネシア大統領が、震災当初
海外からの支援を要請しなかったことか
ら、AMDA インドネシア支部単独で緊急
医療チームを被災地に派遣し、活動す
ることになりました。

AMDA インドネシア支部の医師2人と看護師1人は、9月6日にマカッサルで救援物資や医療品を調達し翌日被災地へ到着。被害の激しかったチアンジュルの2か村で活動しました。被災地では余震がく中、ボランティアが生存者の救出活動にあたりました。

AMDA インドネシアチームは、村の避難所での医薬品配布、診察活動を行いました。子どもたちに対しては外傷後の心理療法も行いました。また、被災地を歩きまわり被災者へ食糧を配りました。

フィリピン台風16号被害 に対する緊急支援活動



- ◇実施場所：フィリピン共和国マニラ
首都圏マリキナ市

- ◇実施期間：
2009年9月27日～10月7日
- ◇派遣者：ニティアン・ヴィーラバグ
AMDA 本部職員、古城デージー倉敷フ
リピーノサークル代表
- ◇事業チーム構成：
フィリピン空軍（PAF）の医師6人、
AMDA 現地ボランティア4人、派遣者
2人の合同チーム
- ◇現地協力機関：AMDA フィリピン支部、
アジア医学生協議会（AMSA）フィリ
ピン支部、ライオンズクラブ・マニラ
チャイナタウン（LCMC）、アジア・メ
ディカル・モバイル・サービス（AMMS）
- ◇実施協力団体：倉敷フィリピーノサー
クル（倉敷市教育委員会指導平和交流
推進室ボランティア国際交流団体とし
て登録）
- ◇事業内容：

フィリピン・ルソン島で2009年9月26日から台風16号「ケッツアーナ」による大規模な洪水が発生、過去42年間で最悪となる水害に見舞われました。同政府は27日、マニラ首都圏や周辺地域で少なくとも73人が死亡、行方不明23人と発表するとともに、ルソン島を中心にマニラと25の州に国家非常事態を宣言しました。マニラ市内の約80パーセントが浸水し、大規模な停電も発生、避難者数は28万人を超える事態となりました。

9月29日にAMDA本部調整員はマニラ到着後にマリキナの避難所を4か所視察しました。なかには5000人程が学校に避難し、ひとつの教室で25世帯が暮らしているところもありました。AMDAはフィリピン支部の仲介でフィリピン空軍と協力して医療活動を行うことになり、AMDA・フィリピン空軍合同チームは、医薬品や石鹸を調達し、診療を行いました。診療した438人（子ども235人、大人60人）には、風邪や皮膚炎、眼下疾患が多く見られました。

10月7日にAMDAチームはマニラ東部に隣接する被災地リサール州のピピンダン村で、500世帯への食料や救援物資を配布しました。

インドネシアスマトラ島沖 地震被害に対する緊急医療 支援活動



◇実施場所：インドネシア共和国西スマトラ州パダン

◇実施期間：

2009年10月1日～10月15日

◇派遣者：津曲兼司（医療法人アスカ会医師）、光島宏美（医療法人アスカ会作業療法士）、瀧崎祐一（AMDA ERネットワーク登録医師）、細村幹夫（医療法人 康麗会越谷誠和病院医師）、米田哲（群馬県立小児医療センター医師）、工藤ちひろ（AMDA ER ネットワーク登録看護師）、平井麗子（医療法人アスカ会運動健康指導士）

◇事業チーム構成：AMDA インドネシア支部9人とAMDA本部日本からの計16人のチームの合同チーム

◇現地協力機関：

パダンのジャミール総合病院、
現地 NGO ドンペット・ドゥアファ

◇実施協力団体：医療法人アスカ会

◇事業内容：

9月30日インドネシア・スマトラ島沖でマグニチュード7.9の地震が発生し、死者1,117人、倒壊家屋13万軒以上の甚大な被害が発生しました（インドネシア政府10月15日発表）。10月1日AMDA本部は、日本から津曲医師、光島医療調整員の2人を第1次医療チームとして派遣。同時にAMDAインドネシア支部医療チームも被災地に派遣しました。翌2日にはインドネシア支部医療チームが被災地パダンの総合病院に外科医と麻酔科医を外科手術応援スタッフとして派遣し、地震による重症者の手術にあたりました。4日からは日本からの医療チームが中心となり、パリアマン地区にて巡回診療を開始。同日、日本から第2次医療チーム（瀧崎医師、細村医師、米田医師、工藤看護師、平井医療調整員）を派遣し、5日から巡回診療に加わりました。巡回診療では、地震による落下物や転倒による骨折や外傷、ショックによる頭痛・めまい・疲労等の不定愁訴、避難生活によるとみられる上気道炎などの患者を診療しました。10月12日、被災地で全ての医療機関が機能し始めたこと、地元医療機関の医師の半数が現場復帰したことからAMDAは緊急フェーズでの役割を終えたと判断し、現地協力団体ドンペット・ドゥアファに活動を引き継ぎ、巡回診療活動を終了しました。10月4日から12日までの8日間の巡回診療活動期間中に約1,130人を診療しました。

◇派遣者の声：

「揺れが2回来た。1回目で逃げた人は助かった。」「5年前の地震でヒビが入っていた建物が倒れた。」「また崩れるかと思うと怖くて家で眠れない」「レンガやコンクリート造りばかり壊れた」「津波に気をつけてさえいればいいと思っていた」一話しながら地震の恐怖を思い出してしまったのか、泣いてしまう子どももいた（平井麗子・健康運動指導士）

インド洪水被害に対する 緊急救援活動

◇実施場所：インド南部カルナタカ州（カワール地区ゼリワラ村、Binaga村、Sakalbag村）

◇実施期間：

2009年10月10日～10月18日

◇派遣者：鹿島小緒里調整員（岡山大学大学院医歯薬学総合研究科助教）

◇チーム構成：AMDA本部調整員1人、セデックマール・カマト医師（AMDAインド支部長）

◇現地協力機関：インド・マニパール大学、AMDAインド支部

◇実施協力団体：岡山大学

◇事業内容：

9月下旬、インド南部カルナタカ州とその周辺州で、数十年に一度といわれる集中豪雨による洪水が発生し、カルナタカ州で、死者約200人以上、250万人以上が家屋を失う甚大な被害が発生しました。AMDA本部は、インド支部およびAMDAと連携協力を結んでいる岡山大学とインド・マニパール大学と協力し、被災地の調査を実施しました。洪水被害はカルナタカ州の広範囲にわたっており、その中でも地元行政から救援の要請があったUttara Kannanda県に、12日鹿島調整員とAMDAインド支部長カマト医師が赴き、行政官等との協議を行いました。そこで被害が大きかった地域としてあげられた3か所の村を訪問しさらに調査を行い、13日、Binaga村とSakalbag村で、幼児の衣類、学校用のかばんと文具、ビスケットの寄贈を行うことになりました。また、被災地カルナタ州の行政機関との意見交換や被災村の調査を通じ、化学工場から流出した化学物質による井戸水汚染が懸念されていることが判明しました。AMDAインド支部とマニパール大学は、被災者の健康への影響を考慮し、飲料水の調査をしました。

サモア諸島津波被害に 対する医療支援活動



◇実施場所：サモア諸島ウボル島南部

◇実施期間：

2009年10月13日～10月20日

◇派遣者：ニッティヤン・ヴィーラバグ（AMDA本部職員）、平野恭介（AMDA本部）、リセ・グルート・アルバーツ（AMDAニュージーランド支部）

◇事業チーム構成：

Emulsi Poni 医師（メドセン病院院長）、Audrey氏（Women In Business Development Inc.）、AMDA本部調査員2人、AMDAニュージーランド支部心理療法専門家1人 計5人

◇現地協力機関：メドセン医院

（地域中核病院、Women In Business Development Inc.（現地 NGO）

◇実施協力団体：AMDA カナダ支部、AMDAニュージーランド支部

◇事業内容：

南太平洋のサモア諸島付近で、9月29日マグニチュード8.3の強い地震があり、約5メートルの津波が発生しました。サモア独立国では、死者137人、負傷者310人、行方不明者2人、20村が全壊し、約3500人が避難しました（10月7日WHO発表）。津波発生直後より、AMDAカナダ支部、ニュージーランド支部と協力し、現地協力者を通じて被災状況と医療ニーズを確認、AMDA本部とニュージーランド支部からは心理療法専門家を派遣しました。本部派遣調整員は経由地オークランドで医薬品を調達し、サモアに入国しました。16日、首都アピアの中核病院メドセン医院に、医薬品とニュージーランド支部から送られた注射器、注射針、体温計などを寄贈しました。メドセン病院長のプニ医師は、災害発生直後から被災地での緊急医療に携わっており、近い将来に被災者が仮設住宅に移動した後も被災者の健康状態を診ることができる立場であることから寄贈先と決定しました。災害発生から2週間以上経った時点でも、ブルーシートを張っただけの仮住まいを続けている被災者、またショックから無気力状態になっている被災者も多く見られました。そのため、心理専門家アルバーツ氏は、地元女性団体のWomen In Business Development Inc. や他の支援団体スタッフに対して、カウンセリング技術やトラウマの影響、ストレスサインの見つけ方などの心理ケア研修を実施しました。

その後の被災地の復興調査と支援に、2010年2月再び本部から調整員が赴き、被災地アピア地域の小学校と幼稚園あわせて7校に学用品を、メドセン病院に医療用品の贈呈を行いました。

中国四川省地震被災地への支援／新型インフルエンザ対策



- ◇実施場所：中国四川省成都（チョンドン）、広元市、都江堰 他
- ◇実施期間：2009年12月13日～12月22日
- ◇派遣者：ニッティアン・ヴィーラヴァーグ AMDA 本部職員
- ◇事業チーム構成：四川省中医薬科学院（SACMS）の医師5人、Gou Wenyin 医師、広元市病院の医師12人、看護師6人と派遣者計24人
- ◇現地協力機関：四川省中医薬科学院（SACMS）、広元市病院
- ◇事業内容：

2008年5月の四川大地震によって大きな被害を受けた3つの主な学校を訪問し、児童生徒に対して新型インフルエンザ（H1N1型）予防の、医療活動を行いました。これらの地域では、ほとんどの学校が全壊または半壊し、未だに復旧は完了していません。しかしながら、被災住民の暮らしはほぼ平常に戻っています。

以下の4つの分野の活動を行いました。

1. 中学校の生徒に対する健康診断
AMDA は、四川省広元市中学校で生徒の健康診断を実施しました。広元市病院の医師12名と看護師6名からなるチームが、1183人の生徒について、身長、体重、血圧、視力、色覚、聴力の測定と、歯科、咽喉、内科検査を行いました。その結果、異状無しの生徒は全体の11%で、ほとんどの生徒に色視症、近視、単純性甲状腺腫、中耳炎、色覚異常、扁平足、肥満、貧血などの症状が見られました。
2. 新型インフルエンザ（H1N1型）への対策と啓発運動
AMDA と SACMS は、2つの学校で児童生徒に保健指導活動を行いました。上級研究員で SACMS 発行の医学雑誌の編集にも携わるジャン・トンユン博士が、同僚4人の支援を受けて啓発活動に取り組みました。広元市の山西小学校と都江堰の沿江小学校から合計約800人の児童生徒が参加しました。セッションの後、2つの小学校に新型インフルエンザ（H1N1型）に効く漢方の錠剤を寄付しました。

3. 児童への新型インフル治療薬の配布

AMDA は、SACMS の支援を受けて、児童生徒を新型インフルへの感染から守る漢方薬を配りました。AMDA は、子供たちに24錠入りの箱を2400箱贈りました。期間中、子供1人当たり2箱が配られ、子供たちは、啓発活動期間中に錠剤を6日間続けて飲むことの重要性を教えられました。さらに校長先生はじめ先生方も服用期間と服用量について指導を受け、それを父兄に伝えることになっています。薬は被災地域の2つの主な学校に贈られ、広元市の山西小学校が約1000箱、都江堰の沿江小学校が約1400箱の寄贈を受けました。前者ではおよそ500人、後者ではおよそ700人の児童生徒が恩恵を受けたことになります。

4. 被災地域の学校への体温計の寄付

AMDA はまた、多くの学校に体温計を贈りました。インフルエンザ流行の広元、都江堰、南充、ペンズールズー等多くの学校に計325本、都江堰と成都の保健所に25本入りずつ贈呈しました。

ハイチ地震被災者に対する緊急医療支援



- ◇活動実施場所：ハイチ共和国、ゴナイク、サンマルク、ドミニカ共和国ヒマニ
- ◇実施期間：2010年1月14日から（現在継続中。3月末までを年次報告として以下記載）
- ◇派遣者：AMDA 多国籍医師団参加人数：日本・カナダ・コロンビア・ペルー・ネパール・ボリビア・インドから、医師15人・看護師8人・調整員6人 計29人 3月末日現在
- ◇事業チーム構成：上記に加え、ハイチ国内ゴナイク、サンマルク各病院のスタッフ、
- ◇現地協力機関及び団体：在ドミニカ日本大使館、ハイチ国保健省、CCISD、CECI、（いずれもカナダの民間団体）、PNP（ハイチの民間団体）
- ◇事業内容：2010年1月12日（現地時間）ハイチ共和国首都ポルトープランス近郊で、マグニチュード7.0の地震が発生。死者

22万人以上と見られも今世紀最大の自然災害といわれるものとなりました。この地震によりハイチ政府と治安維持にあっていた国連ハイチ安定化ミッション（MINUSTAH）が機能不全に陥り、統治機構は機能しない状況になりました。

AMDA は、直ちに支援活動を開始。第一次チームとして、日本から医師1人、調整員2人の3人を、同時にカナダ支部から看護師1人を派遣。15日ハイチ隣国ドミニカ共和国首都サントドミンゴに到着。その後カナダの民間団体 CECI と現地 NGO と共に、重傷者が転送されているサンマルク（ポルトープランス北西約90キロ）の聖ニコラス病院に向かい、到着後診療活動を開始しました。また、国連等関係機関と協議した結果、1月25日からは被災地ポルトープランスから5万人以上（1月28日現在）が避難しているゴナイク（Gonaives：ポルトープランスから北西120キロ）の病院で活動することになりました。ゴナイク、サンマルクでは外科手術をはじめとする緊急医療活動を、またポルトープランスの避難者居住地域では食料品の提供を現地 NGO とともに行いました。

- ハイチ・サンマルク 聖ニコラス病院での病院支援：被災地ポルトープランスから転送されてくる重症患者の診療
- ハイチ・ゴナイクでの Hospital de Secours des Gonaives など2病院の支援 被災地から転送されてくる重症患者の診療、手術及び医療器具の寄贈
- ドミニカ側国境ヒマニでの病院支援 被災地から転送されてくる重症患者の診療

チリ地震被災者に対する緊急医療支援活動



- ◇実施場所：チリ国第7州：マウレ州の沿岸部 コンスティツシオン
- ◇実施期間：2010年3月2日から（現在継続中。3月末までを年次報告として以下記載）
- ◇派遣者：本部より、津曲兼司医師、森田佳奈子調整員、大和玲子看護師、石岡末和看護師の4人、AMDA ボリビア支部より心理カウンセラー1人、AMDA ペルー支部より調整員1人 計6人
- ◇事業チーム構成：CESFAM アルトセロ診療所より所長含

む医師、看護師、看護助手、栄養士、ソーシャルワーカー等20人、サンチアゴから派遣のチリ緊急医療チームより医師、看護師、調整員等5人、チリ政府軍ラ・セレーナ基地より軍人15人

◇現地協力機関：

チリ政府地震対策緊急本部、チリ政府軍タルカ基地、保健省マウレ州事務所、CESFAM アルトセロ診療所、サンチアゴから派遣のチリ緊急医療チーム、ミドリ十字薬局、タルカ住民支援グループ 他

◇事業内容：

南米チリにおいて2月27日マグニチュード8.8地震が発生。震源地に近いピオピオ州都コンセプションを始め、沿岸部一帯が地震または津波の被害にあり、死者は708人にのぼる事態となりました。AMDAからの第一次チームはボリビアを経由してチリ入りし、3月5日から11日にかけて調査を実施。マウレ州(第7州)の州都タルカのチリ軍敷地内に設置された地震対策本部、軍医療担当部門、コンスティツション病院、地元NGO、ピオピオ州(第8州)のコンセプション州立病院(周辺の5県20万人を対象とする総合専門病院)などを訪問し、マウレ州、ピオピオ州にまたがる沿岸部地震津波被災地の視察を行いました。その結果、被災者へのチリ政府軍の支援は急速に進められていたものの、沿岸漁村部では災害弱者である乳幼児への支援が行われていないことが分かり、「乳幼児支援プロジェクト」を実施することを決定し、物資の調達や関係者とのミーティングを重ね、3月23日にプロジェクトを実施しました。

CESFAM アルトセロ診療所の小児科看護師協力のもと、地震の影響で健康・栄養状態に異常があると思われる乳幼児100名を抽出。その対象者たちへ診療所内・外2チームに分かれて乳幼児健康診断と物資配給を行った。診療所内チームでは、来院した乳幼児への支援とし、診療所外チームは7村の被災キャンプ地や村落部貧困地域を巡回訪問しての実施となった。内容は、チリ厚生省の乳幼児定期健診プログラムに基づくもので、乳幼児の体重・身長を測定し、成長曲線で栄養・発育状況を観察・評価、その後、保健・衛生・育児指導を行い、最後に物資を配給するというもの。AMDA 独自アンケート調査とチリ厚生省の母子健康手帳のデータを活用。

これらの調査の結果、栄養状態に極度の影響をきたしている乳幼児、医師の診察・処置が必要になる乳幼児は発見されなかった。しかし、キャンプ地や街の中心から離れた村落部へ行くほど、居住環境が悪くなっていったという報告を受け、震災後4週間が経過し、感染が懸念され始める時期ということから、集団保健指導を企画し、3月25日にはアルトセロ診療所の看護師、サンチアゴの緊急医療チー

ムと共に、集団保健指導を3か所の地域で、80名を対象に実施しました。実施場所は、医療者が実際訪問して衛生環境が悪かった場所を選び、基本的な手洗いを元にした教育ビデオを使って、手形のお面をして、歌や動きを多くし、被災で落ち込む人々に少しでも明るい時間を提供できたら…という想いを込めて、子供から大人まで楽しく学べる内容を心がけた。現地の各種機関の協力が得られ、ローカルイニシアチブで実施をおこなった結果、地元ニーズに合った効果的な活動になった。

◇派遣者の声：

歴史的な背景からこれまで軍隊に対して距離感をもっていただ住民や医療専門家から、「軍隊ってこんなにいい人たちだと思わなかった。」「外に出て活動する重要性が理解できた。」など、AMDA 派遣者との協働によって、新しい発見を感じて伝えてくれるひが多かった。

また、多くの人から「遠くからチリに来てくれてありがとう!」と、地球の裏側にある日本人の支援に感謝の言葉を寄せられた。

ASMP

AMDA Soul and Medicine Program AMDA 医療と魂のプログラム



◇実施場所： インドネシア スラヴェシ島、バトゥラプシ マリノ

◇実施期間：2009年5月16日

◇派遣者：臨済宗ご住職5人(原田浩文、大家昌基、山内正樹、鮎川直樹、魚住和寛、各位自費参加)

◇現地での参加者を含めた事業チーム構成：AMDA インドネシア支部長 フスニ タンラ医師

◇現地協力機関：バトゥラプシ マリノ地区 教育委員会 教育長、マリノ地区会長

◇実施協力団体：インドネシア、バトゥラプシ マリノ イスラム教 教主

◇事業内容：AMDA インドネシア支部長タンラ医師を中心にスラヴェシ島南部バトゥラプシ・マリノ地区において医療と魂のプログラム(ASMP, アスンプ)を実施。バトゥラプシ・マリノ地区長をはじめとした地元有力者を招待し、慰霊祭を挙げる。タンラ

支部長がインドネシアは多様な宗教を持つ国であるがゆえに宗教間の対立を防ぐためには、インドネシア政府、宗教団体の努力だけではなく、住民一人一人が平和についての意識を高めることが重要であるとのスピーチを行った。イスラム教指導者の祈りの後、日本から参加した臨済宗の5人のご住職の読経が行われ、地元住民250名とともに、第二次世界大戦戦没者慰霊と平和への祈りを行った。一方医療プログラムとしては、90人の男子にイスラム教の大切な宗教儀式である割礼の手術を適切な医療技術をもって行った。また式典に参加していた保護者たちに対して保健衛生教育を行った。

◇派遣者の声：

このような式典がより多くの民族、国民、宗教、人種等の壁を超えて理解と調和をもたらし、世界をよりよくするための障害を乗り越える努力をするきっかけとなることを望んでいる。

ASMP 及び合同医療ミッション モンゴル国眼科医療奉仕団活動

◇実施場所：

モンゴル国 首都ウランバートル

◇実施期間：

2009年8月19日から25日

◇派遣者：

棕野和子(天理高校第二部看護師/自費参加)、難波 妙 本部職員

◇事業チーム構成：

医師6人、看護師2人、検眼師、現地調整員、運転手各1人と派遣者の計13人

◇現地協力機関：

モンゴル国保健省、モンゴル眼科協会、モンゴル宗教省 ガンダン寺

◇実施協力団体：

人類愛善会モンゴルセンター City Optic

◇事業内容：

2006年8月に菅波代表がモンゴルを訪問し、エンフバヤル前大統領に面会した際、モンゴルの古刹であるダンバダルジャー寺と日本人墓地跡を訪れ、この寺院が第二次世界大戦後日本人抑留者の病院として使用されていたことを知り、この地においてもこのASMPを実施することを決定。2007年2月前大統領来日の際に、モンゴル国において医療プロジェクトを実施しAMDAがモンゴル国の医療現場に貢献することを約束。

2009年8月、ガンダン寺にて第二回第二次世界大戦犠牲者追悼と平和祈願のためのAMDA 医療と魂のプログラム、慰霊祭を宗教法人大本、人類愛善会、現地宗教者の協力を得て実施。今後に向け首都ウランバートルにおいてモンゴル国元厚生省副大臣、保健省 ENKHBAT 氏を通して、モンゴル国眼科協会、モンゴル国立第一病院、第二病院関係者とともに現地二ードの調査を実施。

研修・セミナー

インド日本緊急救援研修プログラム 2009

◇実施場所：インド共和国カルナタカ州 マンガロール、マニパール大学 (Manipal University, Mangalore, Karnataka)

◇実施期間：2009年8月26日～29日

◇派遣者：ニッティヤン・ヴィーラヴァーグ (AMDA 本部職員)、セドゥクマール・カマト (AMDA インド支部長)、ラマチャンドラ・カマト (AMDA インド支部職員)

◇出席者：世界保健機関 GOARN (地球規模感染症に対する警戒と対応ネットワーク)、国連児童基金、インド国立災害対策研究所、マニパール大学、NIMHANS (現地 NGO)、Media & Photographer (現地企業)、岡山大学、AMDA の関係者等 42 人

◇現地協力機関：国連児童基金インド事務所、インド国立災害対策研究所、NIMHANS、Media & Photographer

◇実施協力団体：マニパール大学、岡山大学

◇事業内容：近年世界中で大規模な災害が起きており、被災者へ迅速な支援を行うには他の組織との連携が必要不可欠になっています。特に教育機関や大学は人道支援活動や感染症対策に重要な役割を果たしており、その分野で活動する人材育成を行っています。AMDA が協定を結んでいる教育機関は世界に 6 つあります。そのひとつが 2009 年 2 月に協定を結んだインド・カルナタカ州のマニパール大学です。

今回 AMDA はマニパール大学と岡山大学と協力して、8 月 26 日から 29 日まで「インド日本緊急救援研修プログラム 2009」を同大学で開催しました。この研修は、緊急救援活動に必要な知識や技術を備えた人材を育成するために実施されました。講師は、世界保健機関 GOARN、国連児童基金、インド国立災害対策研究所、マニパール大学、岡山大学、AMDA の職員が務めました。参加者の多くはマニパール大学に在籍して医学・看護学・薬学などを専門とする教授や助教、講師、研修医ら 30 人です。参加者は 4 日間のカリキュラムで、災害別簡易保健調査手法、災害対策におけるコミュニケーション技術、大量被災者マネジメント、リハ

■連携協定大学 2010年3月31日現在
マニパール大学 (インド)
ハサマディン大学 (インドネシア)
岡山大学 (日本) 建国大学 (韓国)
パカイ医科大学、ハムダード大学 (パキスタン)

ビリテーション・復興支援などについて学びました。参加者には研修終了後にマニパール大学から修了書が渡されました。

岡山県立大学大学院「災害医療援助特論」第 6 回公開講座 災害セミナー

—災害時の様々な医療への取り組み—

◇開催日時：9月13日(日) 13:30～17:30

◇開催場所：岡山国際交流センター国際会議場

◇内容：第 1 部 災害対応—岡山からの発信「災害介護」講師：福嶋啓祐医師
岡山県老人保健施設協会会長 (医) 福嶋医院 (学) 福嶋学園 理事長

第 2 部 海外緊急医療支援と身近な救急救命

①ミャンマー・サイクロン緊急医療支援活動の経験から

②身近な救急救命/AEDの普及について
講師：寺戸通久医師 岡山大学医療教育統合開発センター医学教育部門助教 岡山大学病院救急科医師

緊急医療について様々な視点からの事例を紹介。大学院生 20 人を含む約 60 人が参加しました

国内防災

静岡県袋井市合同総合防災訓練

◇実施場所：静岡県袋井市山名公民館

◇実施日：8月29日

◇主催者：静岡県、袋井市

◇内容：2009 年は、8 月 11 日に最大震度 6 弱の地震が発生し、路面崩落のため高速道路が通行止めになるなど被害のあった袋井市で開催されました。AMDA は、98 年から静岡県総合防災訓練に参加し、近年は、重症患者を航空機などで被災地外の医療機関に搬送する「広域医療搬送訓練」に参加してきました。今回は、地震発生後に設置される救護所に県外組織として応援に入り負傷者をトリアージする「救護所トリアージ訓練」への参加となりました。救護所は、東海地震など大規模な地震発生直後、地域の診療所が閉鎖される代わりに、小学校や公民館に設置されます。運営は、主に地域の医師、看護師が担います。大災害発生時には、医療従事者の対応能力を超える多くの負傷が発生します。そのような状況に対応するため、救護所では、負傷者を重症度や緊急度に応じて振り分け、治療に優先順位をつけるトリアージを実施し、重症患者や中等症患者を、医療設備の整った救護病院や県外災害拠点病院などに搬送するよう連携します。AMDA は、本訓練において、ドクターコマンダーを務めるなど救護所のリーダーとして静岡県看護協会と協力し、約 1 時間半の間に 80 人以上の模擬患者をトリアージする訓練に参加しました。

今回は、連携協定を結んでいる岡山大学から医師 3 人、AMDA の ER ネットワークから医師 2 人、看護師 2 人とバランス良く参加があり、今後の活動に向けてネットワークの強化を図ることもできました。

◇派遣者：医師 5 人、看護師 2 人、調整員 谷口敬一郎 本部職員

〈2009 年度 その他の動き・イベント参加〉

4月1日	AMDA 玉野クラブ、AMDA 夕張クラブ設立
4月18日	あすか健康村フェスティバル
8月26日	国立大学法人高知大学医学部との連携協定調印
9月27日	かなべ福祉まつり
10月24日	コープフェスタ 2009
12月25～29日	AMDA バングラデシュプロジェクト現地視察・交流 AMDA 玉野クラブ長等 3 人渡航
2月6～7日	ワンワールドフェスティバル (大阪)
3月5～7日	岡山県洋蘭展
3月6日	RSK チャリティコンサート

〈出張講演〉 (敬称略)

岡山大学開学 60 周年シンポジウム、日本看護・小児看護学術集会高知大会をはじめ新潟大学国際戦略部、関西学院大学災害復興制度研究所、倉敷芸術科学大学、金沢大学、総社市教育委員会、全国自治体病院開設者協議会岡山県支部、中国五県高等学校教頭・副校長会議協議会、京都光華女子大学短期大学、おかやまコープエリア委員会、小中高等学校等 51 の団体より講演依頼をいただき、AMDA から菅波代表、職員等が出向き、活動を紹介報告しました。

〈大学講義〉

岡山県立大学大学院、岡山大学大学院医歯薬学総合研究科、岡山大学薬学部、県立広島大学保健福祉学部等

平成21年度も多くの
皆さまの温かい御支援により
事業を実施することができました。
ここに御礼とともに
御報告申し上げます。

<平成21年度 決算報告>

収支計算書

自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日 (単位:円)

科目	金額	
I 収入の部		
寄付金収入		119,703,336
会費収入		10,443,500
補助金収入		148,193
助成金収入		1,150,000
販売収入		368,800
その他収入		300,219
当期収入合計		132,114,048
II 支出の部		
事業費		
緊急救援事業費	30,903,255	
中期復興支援事業費	1,498,474	
海外事業費	18,903,172	
日本国内事業費	10,904,349	62,209,250
共通管理費		25,026,700
当期支出合計		87,235,950
当期収支差額		44,878,098
前期繰越収支差額		120,280,118
次期繰越収支差額		165,158,216

AMDA：特定非営利活動法人アムダ

役員名簿

理事長	菅波 茂
副理事長	的野 秀利
理事	公設国際貢献大学校校営管理者 小嶋 光信
理事	両備ホールディングス(株) 代表取締役社長
理事	日南 香
理事	元県議会議員
理事	菅波 知子
理事	中西 泉
理事	(医社)慶泉会理事長 町田慶泉病院院長
理事	鈴木 俊介
監事	アスカワールドコンサルタント (株)代表取締役 田村 政志
監事	(株)中国銀行常勤監査役 竹元 武士
監事	(社福)新見市社会福祉協議会会長

貸借対照表

平成22年3月31日現在 (単位:円)

資産の部		負債の部	
科目名	金額	科目名	金額
I 流動資産	171,169,844	流動負債	2,337,109
現金	3,987,620	未払金	2,269,702
預金	162,158,139	預り金	67,407
商品・棚卸資産	1,772,709		
未収金	3,063,994	引当金	4,419,610
仮払金	187,382	プロジェクト引当金	4,419,610
II 固定資産	745,091	負債合計	6,756,719
有形固定資産	745,091		
車両運搬具	500,000		
器具備品	3,394,956		
減価償却累計額	▲ 3,149,865		
資産合計	171,914,935	正味財産の部	
		正味財産	165,158,216
		(うち当期正味財産増加額)	44,878,098
		負債及び正味財産合計	171,914,935

AMDA 団体概要

所在地 〒700-0013 岡山県岡山市北区伊福町 3-31-1

設立年月日 1984年8月

国連経済社会理事会「総合協議資格」取得
岡山県認証 特定非営利活動法人アムダ：AMDA
理事7人 幹事2人

理事長・グループ代表 菅波 茂

AMDA グループ構成団体

(特活)アムダ：AMDA、AMDA インターナショナル(任意団体)、(特活)AMDA 社会開発機構、アムダ国際福祉事業団、(特活)AMDA 国際医療情報センター

海外活動：

緊急医療支援、復興支援、合同医療ミッション、スポーツ親善交流、ASMP、セミナー開催等

活動国：ハイチ、チリ、バングラデシュ、インドネシア、モンゴル、フィリピン、ネパール、中国他

国内活動：

出張講演、大学での講義、活動報告会・セミナー開催、国内防災訓練対応、高校生会ボランティア地域組織3支部・7クラブの各地域での活動他

AMDA 支部：兵庫県支部、神奈川支部、沖縄支部、

AMDA クラブ：鎌倉、福山、高知、玉野、竹原、夕張、神女(神戸女子大学)

事務局スタッフ：常勤6人 非常勤4人 嘱託1人

会員数：1,178人 以上、6月1日現在

平成21年度 特定非営利活動法人 AMDA 決算報告に関する監査報告書

自 平成21年4月1日

至 平成22年3月31日

上記決算報告書は、監査の結果

適正にして妥当なものと認めます。

平成22年6月18日

監事 田村 政志

監事 竹元 武士